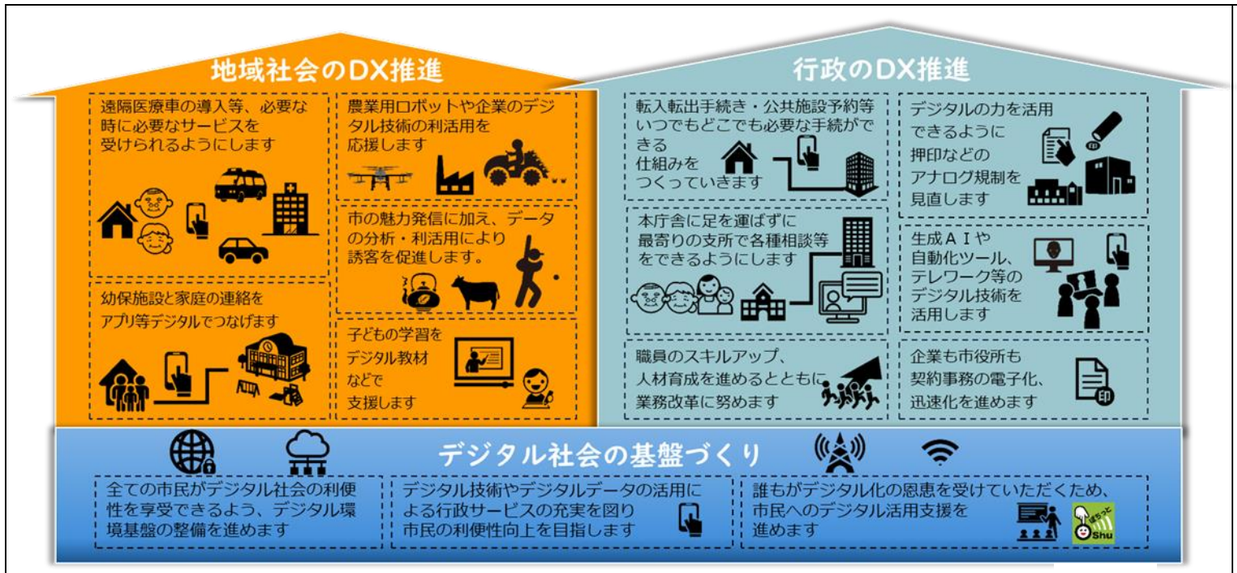
| 改　訂　後 | 改　訂　前 |
| --- | --- |
| 第２期<br>奥州市まち・ひと・しごと<br>創生総合戦略<br><br>令和２年３月<br>（令和３年11月一部改訂）<br>（令和６年　月一部改訂）<br><br>奥州市 | 第２期<br>奥州市まち・ひと・しごと<br>創生総合戦略<br><br>令和２年３月<br>（令和３年11月一部改訂）<br><br>奥州市 |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
| --- | --- |
| （４）第２期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略における改訂の考え方<br>　国は、これまでの地方創生の取組に、デジタルの力によって、地域の個性を活かしながら、地方創生の取組を加速化・深化させるべく、令和４年12月に「第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。<br>　一方、本市では、国が定めた「自治体ＤＸ※推進計画」に基づき「奥州市ＤＸ全体方針」を策定し、市民サービスの向上や業務効率化などを推進しています。また、市が目指すまちの開発デザインとして「奥州市未来羅針盤図」を策定し、３つの全市展開プロジェクトと５つのエリアプロジェクトを立ち上げ、人口減少対策や地域の社会問題解決を図る取組を進めることとなっています。<br>　このような状況から、これまで進めてきた地方創生の取組の進捗状況を踏まえつつ、新たな要素を反映させるため、第２期市総合戦略を改訂します。<br><br>※　ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）とは、デジタル変革を表した言葉であり、「新しいテクノロジーが社会に浸透し、人々の生活をより良いものへ変化させること」とされています。 | １．はじめに<br>（１）第２期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の考え方<br>　（略）<br>（２）計画の期間<br>　（略）<br>（３）奥州市総合計画（2017～2026）との関係<br>　（略）<br><br>２．これまでの取組の成果と課題<br>（１）第１期市総合戦略における人口目標の達成状況 |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
| --- | --- |
| | （略）<br>（２）第１期市総合戦略における重要業績評価指標（ＫＰＩ）の達成状況<br>（略）<br>（３）総括<br>（略） |
| | ３．第２期市総合戦略の目指すべき方向 |
| | （１）基本方針・基本目標の継承<br>（略）<br>（２）重視する視点<br>（略）<br>（３）新たな視点 |
| ①Society5.0※１の実現に向けた技術の活用、ＤＸの推進<br>ＩｏＴやＡＩ、ビッグデータ、５Ｇ等の科学技術を活用した超スマート社会Society5.0で実現する社会は、社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会になるとされており、こうした技術活用を踏まえた取組を進めます。<br>また、「奥州市ＤＸ全体方針」において「デジタルでつながる、デジタルでかわる」を基本理念とし、地域課題解決や豊かで暮らしやすいまちづくりを進める“地域社会ＤＸの推進”、事務の効率化や働き方改革に取り組む“行政ＤＸの推進”、多くの世代が幅広い分野で利便性の高いサービスを享受する“デジタル社会の基盤づくり”の３つの方向性に向かって、デジタル技術を活用した取組を進めます。<br><br>ＤＸ推進における３つの方向性と取組イメージ | ①Society5.0の実現に向けた技術の活用<br>ＩｏＴやＡＩ、ビッグデータ、５Ｇ等の科学技術を活用した超スマート社会Society5.0で実現する社会は、社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会になるとされており、こうした技術活用を踏まえた取組を進めます。 |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
|---|---|
|  <br><br>出典：「奥州市ＤＸ全体方針」<br><br>県内一の生産量を誇る奥州市産の米や、前沢牛、江刺りんごなどに代表される良質な農畜産物、豊富な森林資源、県下有数の工業団地、南部鉄器、岩谷堂箪笥などの伝統工芸品など、多彩で魅力ある奥州市の産業基盤を強化するとともに、起業を促進し、魅力ある商店街を形成し、新産業を創出することで、雇用の維持・拡大を図ります。特にも基幹産業である農業においては、新規就農者・担い手への支援・育成を図るほか、スマート農業の事例研究・導入など持続可能な農業経営となるよう支援します。 | （略）<br>（４）人口目標<br>（略）<br><br>４．総合戦略の基本目標の達成に向けた基本的施策<br>（１）安定した雇用と新しい産業の創出<br>（略）<br>①農・商・工・伝統工芸産業などの産業基盤の強化と新産業の創出<br>県内一の生産量を誇る奥州市産の米や、前沢牛、江刺りんごなどに代表される良質な農畜産物、豊富な森林資源、県下有数の工業団地、南部鉄器、岩谷堂箪笥などの伝統工芸品など、多彩で魅力ある奥州市の産業基盤を強化するとともに、起業を促進し、魅力ある商店街を形成し、新産業を創出することで、雇用の維持・拡大を図ります。特にも基幹産業である農業においては、新規就農者・担い手への支援・育成を図るほか、スマート農業の導入など持続可能な農業経営となるよう支援します。<br>（略） |

## 改　訂　後

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| ジョブカフェ奥州等を通じて就職決定した人数 | 人 | 193 | 160 | 市総合計画における基準値（Ｒ２）152人を維持します。 |
| 新規高卒者の管内就職率 | % | 46.2 | 54.0 | 新規高卒就職者のうち、ハローワーク水沢管内への就職率。市総合計画に基づく目標値。 |
| （略） | | | | |
| 重点地域商店街の通行量 | 人 | 10,406 | 9,350 | 市総合計画における基準値（Ｒ１）9,347人を維持します。 |
| （略） | | | | |

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| 誘致企業数（累計） | 社 | 1 | 12 | 年間１社の県外（市外）企業の誘致に加え、新工業団地分譲に伴う企業数の増を見込みます。 |
| （略） | | | | |

奥州湖周辺の豊かな自然を活かし、焼石岳周辺の観光地化を進めるとともに、えさし

## 改　訂　前

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| ジョブカフェ奥州等を通じて就職決定した人数 | 人 | 193 | 180 | 15人/月で現状維持に努めます。 |
| 新規高卒者の管内就職率 | % | 46.2 | 52.5 | 新規高卒就職者のうち、ハローワーク水沢管内への就職率。市総合計画に基づく目標値。 |
| （略） | | | | |
| 重点地域商店街の通行量 | 人 | 10,406 | 10,400 | 主要３地域の通行量（２日間）について、現状維持に努めます。 |
| （略） | | | | |

②地の利を活かした企業誘致等による雇用拡大

（略）

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| 誘致企業数（累計） | 社 | 1 | 8 | 年間1社の県外（市外）企業の誘致を目指します。 |
| （略） | | | | |

③観光を核とした交流人口の拡大による関連産業の活性化

奥州湖周辺の豊かな自然を活かし、焼石岳周辺の観光地化を進めるとともに、えさし

## 改　訂　後

藤原の郷をはじめとする奥州市の豊富な観光スポットや、質の高い観光資源を活用して、世界文化遺産「平泉」などとの広域的な連携を図ります。また、奥州市ならではの体験型観光など、優れた観光資源を効果的に、デジタルも利用して首都圏等へＰＲし、国内、海外からの誘客の促進を図ります。

| 「奥州市ＤＸ全体方針」に掲げる具体的な取組（抜粋） |
|---|
| ・スマート農業の推進<br>・ドローン等活用<br>・観光客動向把握システム導入<br>・企業ＤＸの支援<br>・地区内交通におけるＡＩを活用した受付・配車システムの導入<br>・中小企業融資あっせん・利子補給運用システム導入 |

すべての子どもが健やかに育ち、また、誰もが安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て環境の整備、各種相談機能の充実、多様な保育サービスの提供を図り、社会全体で子どもを育てられる地域づくりを進めます。また、保育所ＩＣＴシステムを導入して事務仕事を減らすなど、子育てしながら働きやすい環境づくりを支援します。

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| 不妊治療の助成件数（年間） | 件 | 76 | 100 | 特定不妊治療・一般不妊治療助成件数。 |

## 改　訂　前

藤原の郷をはじめとする奥州市の豊富な観光スポットや、質の高い観光資源を活用して、世界文化遺産「平泉」などとの広域的な連携、また、既に多くの受け入れを行っているグリーン・ツーリズムやワーキングホリデーなどの奥州市ならではの体験型観光など、優れた観光資源を効果的に首都圏等へＰＲし、国内、海外からの誘客の促進を図ります。

（略）

（２）出会いを通じた結婚支援、子育て環境ナンバーワンへ

（略）

②安心して子どもを産み育てられる環境づくり

すべての子どもが健やかに育ち、また、誰もが安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て環境の整備、各種相談機能の充実、多様な保育サービスの提供を図り、社会全体で子どもを育てられる地域づくりを進めます。また、子育てしながら働きやすい環境づくりを支援します。

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| 不妊治療の助成件数（年間） | 件 | 76 | 85 | 特定不妊治療・一般不妊治療助成件数。 |

## 改　訂　後

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |

「奥州市ＤＸ全体方針」に掲げる具体的な取組（抜粋）

・学校ＤＸの推進

・保育ＩＣＴシステム導入

・ショートメッセージサービス（ＳＭＳ）による通知メッセージ配信

・テレワークの推進

・「ぽちっと奥州」等アプリによる情報発信の強化

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| 市移住サイトの閲覧数 | 件 | 58,259 | 122,138 | Ｒ４年度の実績値113,091件から８％増（年平均２％増）を目指します。 |
| （略） | | | | |

空き家や田舎空間での新しいワークスタイルの提案、伝統工芸産業の紹介のほか、Ｉターン・Ｕターン者に対する補助制度等により、若い世代が安心して奥州市に移住・定住できる取組を進めます。

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|

## 改　訂　前

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |

（３）体験を通じた新たな奥州ファンの開拓

（略）

①移住・定住の促進

（略）

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| 市移住サイトの閲覧数 | 件 | 58,259 | 66,414 | 2024年度までに10％増を目指し、同じ伸び率で増加を目指します。 |
| （略） | | | | |

②移住者等の就業・起業支援

グリーン・ツーリズムやワーキングホリデーなど、既に数多くの受け入れを行っている団体と連携した農業体験や、空き家や田舎空間での新しいワークスタイルの提案、伝統工芸産業の紹介のほか、Ｉターン・Ｕターン者に対する補助制度等により、若い世代が安心して奥州市に移住・定住できる取組を進めます。

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| ワーキングホリデー参 | 人 | 41 | 40 | 現状維持に努めます。 |

## 改　訂　後

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 移住支援金による移住者数 | 人 | 0 | 14 | 移住支援補助金事業計画に基づく。 |

観光案内所のデジタル化によるＷｅｂ環境での観光情報発信、ふるさと応援寄附、移住等のサイトによる奥州市の魅力発信の強化のほか、市民・事業者・行政の協働による豊かな自然の広がる風景の保全や、新たな観光資源の掘り起こしにより、交流人口の増加を促す施策を推進します。また、市と継続的で多様な関わりを持つ関係人口の拡大を目指します。

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| ふるさと応援寄附件数 | 件 | 12,064 | 56,668 | Ｒ２年度からＲ４年度までの実績平均値53,969件から５％増を目指します。 |

| 「奥州市ＤＸ全体方針」に掲げる具体的な取組（抜粋） |
|---|
| ・（再掲）観光客動向把握システム導入 |
| ・公共施設予約管理システムの導入 |
| ・公衆無線ＬＡＮ環境の維持及び拡充 |
| ・市民へのデジタル活用支援 |
| ・（再掲）「ぽちっと奥州」等アプリによる情報発信の強化 |

## 改　訂　前

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 加者数 | | | | |
| グリーン・ツーリズム参加団体数 | 団体 | 17 | 17 | 現状維持に努めます。 |
| 移住支援金による移住者数 | 人 | 0 | 14 | 移住支援補助金事業計画に基づく。 |

③魅力ある奥州市の地域資源を生かした交流人口・関係人口の拡大

観光、ふるさと応援寄附、移住等のサイトによる奥州市の魅力発信の強化のほか、市民・事業者・行政の協働による豊かな自然の広がる風景の保全や、新たな観光資源の掘り起こしにより、交流人口の増加を促す施策を推進します。また、市と継続的で多様な関わりを持つ関係人口の拡大を目指します。

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| ふるさと応援寄附件数 | 件 | 12,064 | 28,800 | 2024年度までに倍増を目指し、同じ伸び率で増加を目指します。 |

（４）地域愛の醸成と、安心・安全に生活できる個性豊かな地域社会の実現

## 改　訂　後

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| 市内地区センター利用者数 | 千人 | 584 | 557 | Ｒ１年度の実績値（市総合計画における基準値）の水準を目指します。 |
| （略） | | | | |

③災害に強く、犯罪のない、安心・安全な地域づくりの推進

（略）

| ＫＰＩ（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（H30） | 将来（R8） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| 刑法犯発生件数 | 件 | 296 | 200 | 年間200件以下を目指します。 |

| 「奥州市ＤＸ全体方針」に掲げる具体的な取組（抜粋） |
|---|
| ・（再掲）ドローン等活用<br>・高齢者見守り支援<br>・遠隔診療車導入<br>・（再掲）地区内交通におけるＡＩを活用した受付・配車システムの導入<br>・（再掲）学校ＤＸの推進<br>・水道開栓閉栓のネット予約・スマートメーターの導入<br>・（再掲）公共施設予約管理システムの導入 |

## 改　訂　前

（略）

②地域住民が主役となるまちづくりの推進

（略）

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| 市内地区センター利用者数 | 千人 | 584 | 642 | 10%増を目指します。 |
| （略） | | | | |

③災害に強く、犯罪のない、安心・安全な地域づくりの推進

（略）

| KPI（重要業績評価指標） | 単位 | 現状（2018年度） | 将来（2026年度） | 目標設定の考え方 |
|---|---|---|---|---|
| （略） | | | | |
| 刑法犯発生件数 | 件 | 296 | 160 | 2024年度までに年間200件以下を目指し、その後、毎年同じ率での減少を目指します。 |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
|---|---|
| ・（再掲）ショートメッセージサービス（ＳＭＳ）による通知メッセージ配信<br>・デジタル人材の育成・活用<br>・超高速ブロードバンド環境の整備<br>・テレビ難視聴対策<br>・（再掲）公衆無線ＬＡＮ環境の維持及び拡充<br>・（再掲）市民へのデジタル活用支援<br>・（再掲）「ぽちっと奥州」等アプリによる情報発信の強化 | |
| ５．「住み続けたくなる魅力のあるまちづくり」を進める分野横断の横断的な開発プロジェクト・奥州市未来羅針盤図 | |
| | |
| （１）概要<br>奥州市未来羅針盤図は、「住み続けたくなる魅力のあるまちづくり」を着実に進めるための中長期的（５年～10 年）な構想であり、まちの開発デザインとなるものです。３ | |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
|---|---|
| つの全市共通プロジェクトと５つのエリアプロジェクトで構成され、<br>① 地域の特徴を生かした個性豊かで魅力的なまちづくり<br>② 市民や民間企業等と連携した官民共創によるまちづくり<br>③ 官民共創を通じた将来を担うひとづくり<br>を基本コンセプトとしています。それぞれのプロジェクトは相互につながり、補完し合いながら相乗効果を生み、奥州市全体の発展につながります。<br><br>（２）３つの全市展開プロジェクト<br>①地域医療奥州市モデルプロジェクト<br>人口減少や少子高齢化、地方における医師・看護師等医療従事者の慢性的な不足、2024年度から始まった医師の働き方改革への対応など、地域医療を取り巻く状況は非常に厳しいものがあります。<br>こうしたことから、市では、５つの市立医療施設、県立病院、民間医療施設、それぞれの強みを生かしながら機能分化を図るとともに、人的つながりを深めつつ、医療情報のデジタル化などＤＸの推進によって連携を強化し、地域全体をカバーするネットワーク型地域医療体制を構築し、将来的にも安定して医療を受けられる持続可能な地域医療体制及び医療と介護の連携体制を構築していきます。<br>また、市内で分娩を取扱う医療機関が無くなったことによる妊産婦の不安の軽減と安心安全な出産のため、周産期母子医療センターとの連携体制の維持と緊急対応の強化を図りつつ、妊産婦応援給付金や交通費・宿泊費助成などによる経済的負担軽減に取組んでいくとともに、産前産後ケア事業の拡充や助産師、保健師による相談対応の強化に努めていきます。<br>併せて、ヘルスケアの強化による、健康寿命の延伸を図ってまいります。<br>主な取組内容<br>・市立医療施設、県立病院、民間医療施設の強みを生かしたネットワーク型地域医療体制の構築、医師不足への対応<br>・回復期病床の増床や職員の拡充によるリハビリ機能の強化、訪問看護ステーシ | |

| 改　訂　後 | 改　訂　前 |
| --- | --- |
| ョン機能の強化、モバイルクリニックの活用、在宅医療介護連携拠点の設置<br>・へき地医療の維持、モバイルクリニックによる遠隔医療の運用<br>・医業収支比率・病床稼働率の向上、適正な人員配置、徹底したコスト削減、患者満足度向上に向けた取り組み<br>・医師確保の強化、コメディカルの活用によるチーム医療の推進、県立病院と連携した医師養成プログラムの実施、院内保育所の設置<br>・医療情報のデジタル化の推進、医療・介護・行政など多職種間での情報共有の促進、災害等に備えたデータ管理のクラウド化、ＲＰＡ導入による業務効率化<br>・妊産婦のための給付金支給、タクシー助成、宿泊助成、医療費助成、不妊治療助成、ホームページ・ＳＮＳ・ガイドブックなど情報発信の強化、各種子育てサポートの充実<br>・産前産後ケア事業の実施、相談機能の強化、病後児保育の実施、子どもの遊び場の設置<br>・高齢者のフレイル対策、健診事業の強化、健康増進事業の実施、奥州歯科医師会と連携した口腔ケアの推進<br><br>②未来型公共交通プロジェクト<br>公共交通においては、モータリゼーション、高齢化及び人口減少等の進行、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によってバス利用者が著しく減少し、加えて、深刻な運転士不足もあり現状のバス路線の維持・確保が難しい状況にあります。<br>市では、第３次奥州市バス交通計画に基づき、「長期的に持続可能な公共交通ネットワーク」の実現に向け、市民・公共交通事業者・行政が連携・協力しながら、利用ニーズに合った効率的で効果的な公共交通ネットワークの再編を進め、バス路線の見直しにより交通空白地となる地区へは地区内交通を導入し、市民の移動手段の確保に努めてまいりました。<br>しかしながら、慢性的な運転士不足は解消にいたらず、さらには令和６年（2024年）４月からの運転士の残業規制法令で厳格化される、いわゆる2024年問題もあり、公共交 | |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
| --- | --- |
| 通を取り巻く環境は厳しさを増すものと見込まれます。<br>　これら「公共交通の運転士不足」や「多様化するニーズへの対応」などの課題に対応するため、令和６年３月に策定した「奥州市地域公共交通計画（第４次バス交通計画）」においては、公共交通のみならず多様な分野の移動サービスやヒト・モノなどのあらゆる交通リソースを“総動員”し、「多様な交通手段の連携により、市民の暮らしを支え続ける便利で快適な公共交通ネットワークの構築」を目指すこととしました。<br>　具体的な取り組みとして、ＡＩ技術を活用した受付配車システムを前沢地域の導入し、地区内交通の利便性の向上を図ります。<br>　また、ＧＴＦＳデータの作成やバスロケーションシステム「バス予報」によるバスのダイヤ・運行状況の情報提供を継続するとともに、主要施設へのデジタルサイネージの設置、キャッスレス決済の導入などにより“誰もが分かりやすい・利用しやすい公共交通”の実現を進めてまいります。<br>　さらに、深刻な運転士不足に対応するため、自動運転や時間帯公共交通空白地へのライドシェアの導入に関する調査研究にも取り組み、持続可能な公共交通の確保に努めます。<br>主な取組内容<br>・ＡＩを活用したデマンド交通の導入（前沢地域）<br>・コミュニティバス等へのキャッシュレス決済の導入<br>・主要施設へのデジタルサイネージの導入<br>・地区内交通（事前予約型乗合タクシー、自家用有償旅客運送）への支援<br>・ライドシェア、自動運転バス導入の調査研究<br><br>　③小さな拠点づくりプロジェクト<br>　人口減少や高齢化が進んでいる中山間地域等では、住んでいる地域で買い物や医療、福祉など、日常生活に必要な生活サービスや機能の維持ができなくなってきています。そうした地域においては、一体的な日常生活圏を構成している「集落生活圏」を維持することが重要であり、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、「地 | |

| 改　訂　後 | 改　訂　前 |
| --- | --- |
| 域住民が主体となった集落生活圏の将来像の合意形成」、「持続的な取組体制の確立（地域運営組織の形成）」、「生活サービスの維持・確保」、「地域の収入の確保のためのコミュニティビジネスの実施」などの取組を進めるとともに、地域に合った生活サービス機能や交通ネットワークの確保等による「小さな拠点」の形成が必要です。<br>小さな拠点づくりを進めるに当たっては、市内においても過疎化が進んでいる地域で、地域住民による将来構想が策定されており、住民自ら地域課題解決に意欲がある地域を小さな拠点づくりのモデル地区として選定し、各種先駆的な取組を市と地域の協働により実施しながら、その効果を検証し、効果が大きいものについては適宜、他地域への横展開を図ります。<br>令和４年６月には、衣川地域をモデル地区に指定し、デジタルを活用した生活サービス等の事業に取り組んでいるところです。<br>また、令和６年３月に、江刺の伊手地区をモデル地区に指定し、旧伊手小学校を活用した地区センター機能と地元活用機能を複合した拠点施設として整備し、地域資源を活用した生業づくりや地域交流の促進に取り組む予定です。<br>主な取組内容<br>【衣川地域】<br>・高齢者デジタルサポーターによるスマホ活用の推進（令和５年度に全市に展開済）<br>・見守り電球を使った高齢者見守り<br>・民生委員活動へのタブレット活用<br>・モバイルクリニックを活用した遠隔診療サービス<br>【伊手地域】<br>・農業による体験教育（農業体験・食育など体験プログラムの構築）<br>・農産物の開発等による生業の創出<br>・地域交流の促進（高齢者の見守り、ブックカフェ、ものづくり工房等の開設）<br>・自然を活用した交流人口の増加（キャンプ、野外イベント等の開催） | |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
|---|---|
| （３）５つのエリアプロジェクト<br>①奥州湖周辺エリアプロジェクト<br>　奥州湖周辺エリアは、胆沢ダム（奥州湖）を中心に、体験・学習施設「奥州湖交流館」や宿泊・温浴施設「焼石クアパークひめかゆ」、カヌーやラフティングなどの体験活動の場となっている「胆沢川」や「馬留池」、花の百名山として登山客で賑わう「焼石岳」など、観光資源が集中しているエリアです。また、紅葉の名所としても人気があり、シーズン中は、「焼石連峰ビーチライン」や栗駒焼石ほっとライン」に、ドライブやサイクリングで多くの観光客が訪れます。<br>　胆沢ダム直下にある「奥州いさわカヌー競技場」は、全国有数の環境を有するフィールドとして国内外からの評価が高く、令和４年11月には国内で３か所が上限とされている「ＪＯＣ認定競技別強化センター」に認定されました。この認定を契機に、現在、観光施設の位置づけとなっている「奥州湖交流館」にカヌー競技のトレーニング機能を備えた「トレーニングセンター」の設置を予定しています。<br>　また、奥州湖周辺エリアにおいては、河川空間オープン化に向けた検討も進められており、胆沢ダム周辺の施設やフィールドについて、さらなる活用が期待されます。<br>　これらのことから、奥州湖周辺エリアを拠点に、本市の有する豊かな自然資源と独自の歴史文化資源を活かし、カヌーやサイクリング、登山・トレッキングといったアウトドアアクティビティを快適に楽しめる環境を整備し、自然を愛する旅行者の来訪を促進し、アウトドアツーリズムによる地域経済の活性化を図ることを当プロジェクトの目的とします。さらに、来訪者だけでなく、市民自らがアウトドアを楽しめる環境を整備することで、市民のアウトドア活動の促進による健康増進効果、市内へのアウトドア愛好者の移住・定住の促進など、さらなる地域活性化への効果が期待されます。<br>主な取組内容<br>・奥州湖交流館の再整備（アウトドアツーリズムの拠点、カヌー競技のトレーニングセンターとしての機能強化）<br>・アウトドアツーリズムのモデルルートの構築（登山・トレッキング、サイクリング、パドルスポーツなどの体験プログラムの充実、周遊ルートの開発） | |

| 改　訂　後 | 改　訂　前 |
| --- | --- |
| ・奥州湖周辺における河川空間のオープン化（河川空間のオープン化により、胆沢ダム管理支所、馬留広場などの胆沢ダム周辺施設における関係団体、民間事業者等の参入促進）<br><br>②水沢市街地エリアプロジェクト<br>　水沢駅や奥州市役所がある水沢市街地は奥州市の中心拠点ですが、郊外開発が進んだ結果、空洞化が進み、賑わいも減っています。<br>　市は、駅通りのシンボル的存在であるメイプルのリニューアルや憩いの場である水沢公園の再整備、駅前周辺でのイベントやマルシェなどの開催、また歴史、教育、科学、医療、商業、公園、行政機関が集約され徒歩で生活可能な空間創出を通じて賑わいを取り戻すとともに、安心して生活できる医療環境、子育てしやすい環境の整備を進めていきます。<br>主な取組内容<br>・メイプルリニューアル（賑わいと学びの拠点）<br>・水沢公園リニューアル（新医療センター、憩いの場、健康づくりの場、子育て空間）<br>・駅前周辺の賑わいの創出（イベント、マルシェ、歩行者天国等）<br>・徒歩で生活可能なウォーカブル空間の創出<br>・安心して生活できる医療環境、子育て環境の整備<br><br>③江刺市街地エリアプロジェクト<br>　新工業団地立地企業を含めた市内企業の新規雇用が、令和９年度までに約1,400人が見込まれ、それらを見越した市街地開発を速やかに進める必要があります。<br>　江刺市街地エリアの開発については、民設民営を基本とし、スピード感を持って進める必要がある一方で、公平性・透明性を担保しながら進めていく必要があります。そのため、再開発の進め方などについては、第三者機関からの助言指導を定期的に受けながら進めていきます。 | |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
|---|---|
| 主な取組内容<br>・誘致企業雇用者対策（居住、通勤、生活環境の整備）<br>・官民連携による市有地有効活用（文化、子育て等）<br>・江刺工業団地一帯の道路整備（道路拡幅、ロードヒーティングの導入）<br>・市街地エリア開発基本構想及び基本計画並びに開発事業の実施<br><br>④水沢江刺駅周辺エリアプロジェクト<br>奥州市の玄関口である水沢江刺駅は、奥州市の中心部である水沢市街地と江刺市街地を結ぶ重要な拠点です。しかしながら、各エリアへのアクセスが良好とは言えないため、利便性の高い公共交通を実現する必要があります。今後は、駅周辺の開発と移動手段の多様化を進めることで、交流人口を増やし、賑わいのあるまちづくりを目指します。<br>主な取組内容<br>・南岩手交流プラザリニューアル（ＰＲ強化）<br>・駅周辺開発（デベロッパー提携、民間投資の呼び込み）<br>・鋳物産業集中エリアとの有機的連携（ＰＲ、販売促進）<br>・移動手段の多様化（レンタカー、カーシェア、公共交通）<br><br>⑤前沢市街地エリアプロジェクト<br>前沢市街地は、医療・教育・商業など、生活に必要な諸機能が近接したコンパクトな地域です。今後、街路の整備などを進め、さらに住みよい生活環境をつくります。また、ＡＩデマンドシステムを用いた公共交通システムの導入を通じてさらに利便性の高いまちづくりを進めます。<br>主な取組内容<br>・前沢駅周辺の生活環境の充実（アクセス環境、防災力向上）<br>・デジタル技術を活用した利便性の高い公共交通システムの導入 | |

| 改　　訂　　後 | 改　　訂　　前 |
| --- | --- |
| ・未利用市有地等の利活用の検討 | **５．推進に向けた留意点**<br><br>（１）庁内推進体制<br>（略）<br>（２）各計画等との連携<br>（略）<br>（３）ＰＤＣＡサイクルの確立とＫＰＩの把握<br>（略） |